

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

栃木県地方独立行政法人栃木県立リハビリテーションセンター 栃木県立リハビリテーションセンター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
地方独立行政法人	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	13	-	-	-
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
-	21,957	非該当	非該当	15:1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

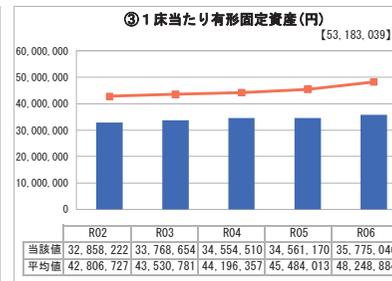
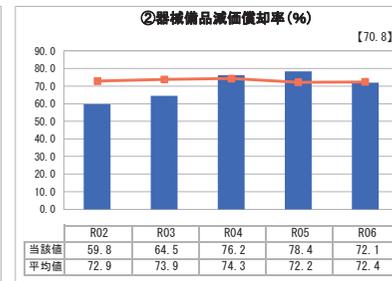
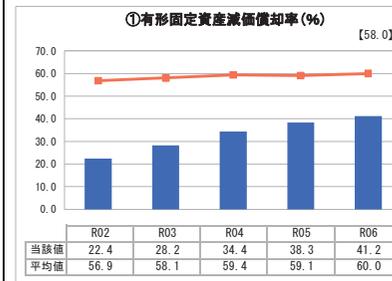
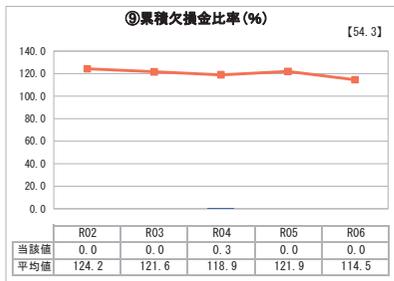
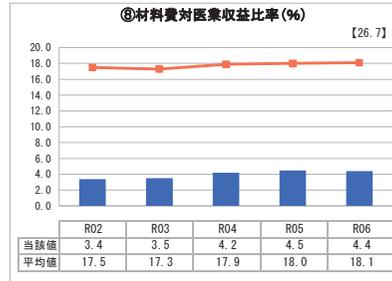
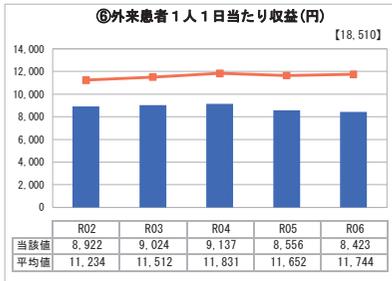
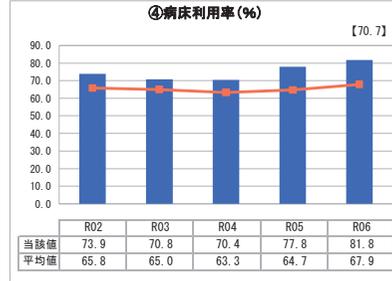
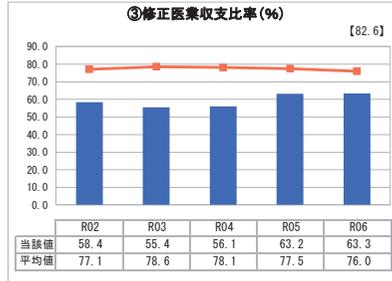
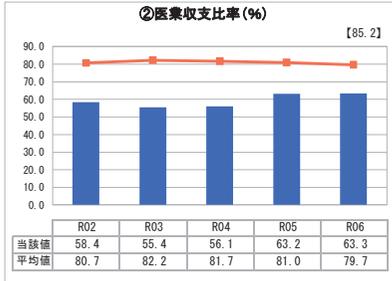
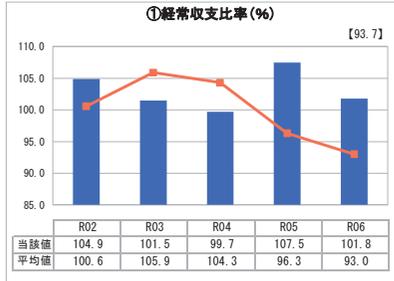
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
153	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	153
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
142	-	142

グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

## 経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 (従来の取組・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	年度	年度
-	平成30	-
-	年度	年度

### I 地域において担っている役割

当センターは、心身に障害のある乳幼児から高齢者までのあらゆる年齢層の県民に対し、質の高い総合的なリハビリテーションを安定的に提供するとともに、県内における医療及び福祉の向上を図るなど、公的使命を果たしながら心身に障害のある県民の自立と社会参加を促進する役割を担っている。

### II 分析欄

#### 1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率、② 医業収支比率、③ 修正医業収支比率  
令和6年度は、延べ入院患者数の増加等により経常収支比率が100%を上回り、医業収益は増加している。しかし、人件費や材料費等も増加していることから医業収支比率及び修正医業収支比率ともに横ばいとなっている。

④ 病床利用率  
効率的な病床コントロール等を意識して対応した結果、昨年度よりも病床利用率は増加した。

⑦ 職員給与費対医業収益比率  
各年度とも類似病院の平均を下回っているが、昨年度から約5%増加している。

#### 2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率、② 器械備品減価償却率  
有形固定資産減価償却率は、平成30年度の地方独立行政法人化以降増加している。一方、器械備品の減価償却率は器械備品の増加に対して、既存備品の償却終了により減価償却累計額の増加が少ないことにより減少した。引き続き定期的な設備等点検の結果に基づき計画的に更新を実施し、適切な維持管理に努めていく。

③ 1床当たり有形固定資産  
各年度とも類似病院の平均を下回っている。

#### 全体総括

経常収支は、令和5年度以降2年連続の黒字となった。医業収支比率及び修正医業収支比率は改善しているものの、依然として類似病院の平均を下回っている。  
また、患者1人当たりの収益も入院外来ともに類似病院の平均を下回っている。  
引き続き、地方独立行政法人の特長を活かし、随時採用等により医療スタッフを確実に確保する等を行い、収益性の高い病院運営に努めていく。